

後悔なんてしない (No Regret)

2008 (平成20) 年 6 月22日鑑賞(宣伝用ビデオ鑑賞)

★★★★



監督・脚本=イ=ソン・ヒイル/出演=イ・ハン/イ・ヨンファン/チョ・ヒョンチョル/キム・ドンウク/チョン・スングル/イ・スンウォン/ファン・チュナ/友情出演=キム・ジョンファ/キム・ファヨン/イ・スンチョル (ツイン配給/2006年韓国映画/114分)

……真正面からゲイを描いた韓国映画の登場は、ゲイを公表したイ=ソン・ヒイル監督なればこそ！ 2人のイケメンが描くゲイの世界は私には無縁だが、フランスでもアメリカでも同性婚が現実のテーマとなっている今、社会的にも法的にも切実なテーマ。主人公の先輩のゲイと後輩のゲイ2人を含めて、ゲイの生態とその生きザマをきっちり勉強しなければ……。6月21日公開の超大作『インディ・ジョーンズ クリスタル・スカルの王国』(08年)が大反響を呼んでいるが、「これぞインディペンデント映画！」というこんな小さな作品にも注目を！

これぞインディペンデント映画！

以下、この映画についてプレスシートやネット情報から私が勉強した情報を整理しておきたい。監督・脚本のイ=ソン・ヒイルは『後悔なんてしない』がはじめての長編映画だが、1998年からいくつかの短編映画で注目を集めていた監督。とりわけ、話題を集めたのは自分が同性愛者(ゲイ)であることを堂々と公表したこと。そんな彼の『シュガー・ヒル』(00年)は、韓国のゲイ解放運動の先駆けとなった作品。また、『後悔なんてしない』で主演したイ・ヨンファンが高校生の時に主演した『グッドロマンス』(01年)は、高校生と人妻との恋愛を描いた問題作。

韓国には国立の芸術家養成施設である韓国芸術総合学校の映像院や公的機関である映画振興委員会付属の映画学校である韓国映画アカデミーなどがあり、そこから巣立つ優秀な映画人が多い。その点は日本と全く異なり、中国とよく似ているが、イ=ソン・ヒイル監督はそんな映画人のエリートではなく、1995年から独立映画協議会の

ワークショップで映画を学び、1998年の短編デビューにこぎつけた人材。

前述のとおり、『後悔なんてしない』に主演したイ・ヨンフンは、高校時代に主演した『グッドロマンス』以来5年ぶりの俳優としてのカムバック（兵役の関係もあるらしい）。他方、『後悔なんてしない』で複雑なキャラのジェミン役を演じたイ・ハンは、いくつかのドラマで準主役級の役柄を演じていたものの、映画はこれがはじめて。そんな2人が、イ・ソン・ヒル監督はじめての長編映画で、何ともショッキングなゲイの役を。

初の長編映画はイ・ソン・ヒル監督にとって大バクチだし、ゲイの役を演ずるイ・ヨンフンとイ・ハンにとっても大バクチだったはずだが、これが大好評！ 第57回ベルリン国際映画祭パノラマ部門に正式出品され、2006年ディレクターズ・カット賞最優秀監督賞などさまざまな賞を受けている。そして日本では、7月11日（金）から新宿バルト9で特別先行上映され、イ・ハンとイ・ヨンフンの舞台挨拶があるが、それは何と第17回東京国際レズビアン&ゲイ映画祭2008の特別後援を受けたもの。まさに、これぞインディペンデント映画！

また、インディペンデント映画なんて、とバカにしてはダメ。『後悔なんてしない』で映画批評家賞新人賞を受賞したイ・ヨンフンは、それによって『GP506』で商業映画デビューを果たし、公開待機中の『走れ自転車』では、ドラマ『春のワルツ』のハン・ヒョジュと共演しているのだから。

スミンの生き方から学ぶものは……？

日本では去る6月8日、東京秋葉原の交差点に車で突っ込み、ナイフで殺傷行為をくり返した加藤智大容疑者が逮捕されたが、彼の携帯サイトへの書き込みを見ると、職場や社会そして彼女ができないことや顔への劣等感など、不満、不満、不満のオンパレード！ しかし、この映画の主人公である田舎の孤児院育ちのスミン（イ・ヨンフン）に比べれば、両親がおり、小・中学生時代は成績優秀だったらしい加藤容疑者の方がずっと恵まれていたはず。

日本より格段に反発心や上昇志向の強い韓国（？）では、そんなスミンはアート・デザインを学ぶべくソウルへ。そして、昼は工場で働き、夜は代行運転をしながら、将来は大学へ行き、ちゃんとした人生を歩むという夢を持ち、それに向かって努力しているというから立派なもの。加藤容疑者を含め、フリーターをしながら、会社が悪

い、社会が悪いと不平不満ばかり言っている日本の若者には、是非こんなスミンの生き方を学んでもらいたいものだ。

同じ美男でも、立場は大違い！

日本ではキムタクはもとより、小栗旬や藤原竜也などイケメン俳優大はやりだが、台湾のF4や韓国の四天王など、イケメンブームはアジア圏共通……？ そんなイケメン基準ではイ・ヨンフンもイ・ハンも十分合格だが、彼らの役柄における生まれ、境遇、立場は大違い。すなわち、孤児院出身で、昼も夜も働いているスミンに対して、ジェミンは大企業の経営者の御曹司。すると、そんな2人が接点を持つことは普通はありえないもの。しかし、それでは映画にならないから、イ・ソン・ヒイル監督はそんな2人の出会いを、ジェミンがスミンに代行運転を頼んだところに設定した。そして、ゲイであることを自覚しているジェミンが、代行運転してくれているスミンに同じ雰囲気を感じたところが、この映画のストーリーの出発点。「財布を忘れた」という口実でマンションの部屋の前までスミンを誘導してきたジェミンは、「部屋に来ないか？」とスミンを誘ったが……？

西欧では同性婚容認の流れだが、韓国では……？

08年6月17日付毎日新聞は、アメリカではマサチューセッツ州に続き同性婚が解禁されたカリフォルニア州で、女性のカップルが弁護士や支援者に囲まれて挙式したことが報道された。同性婚を容認した5月の州最高裁判決に原告として参加した彼女たちが、ピバリーヒルズのロサンゼルス郡地裁支部前で、「この日を待っていた」と喜びあっている姿が写真入りで報道された。

他方、ネット情報によればヨーロッパでは、①アイスランドでは、1996年の登録パートナーシップ法によって、同性カップルに婚姻関係にあるカップルに認められているのと同等の権利・義務を認め、②フランスでは、1999年の民事連帯契約法によって、共同生活を営むカップル（内縁者）に、同性、異性を問わず一定の権利を認めたとのこと。また③ドイツのライフ・パートナーシップ法（2001年）、④フィンランドの登録パートナーシップ法（2001年）、⑤イギリスのシビル・パートナーシップ法（2004年）も、同じような流れのものらしい。

もっともフランスでは、男2人のカップルの結婚を市長が承認したものの、結婚の

適法性が問われた裁判によって、一審、二審、最高裁とも結婚を無効とする判決が出されたため、この男性2人は判決を不服として、欧州人権裁判所に上訴し、現在審理中とのことだ。さて、韓国での同性婚の扱いは……？

主役以外にも、2人の重要キャラが……

イ＝ソン・ヒイル監督が描くこの映画のメインテーマはスミンとジェミンのゲイ関係だから、それがすんなりハッピーエンドになることはないことは明らか。他方、主役2人だけでは短編は成立しても、長編映画はムリ。そこで、イ＝ソン・ヒイル監督がスミンとジェミンの主役2人以外に登場させた2人の重要キャラは……？

今スミンは真面目に働いていた工場を、リストラのためクビにされていた。今日を生きるためには、また将来大学に行くためには、金が必要。そんな当たり前の要請の前にスミンが選んだのは、ゲイバーで売春「夫」になること。なぜそんな道を……？ その答えは単純明快。それは金になるから。それ以外の何モノでもない。

多分日本でも韓国でもゲイはたくさんいるから、ゲイバーや売春夫のニーズがあるのは当然。そんな中、この映画で2人の主役以外にも重要な役割を果たすのが、スミンの先輩ゲイのジョンテ（チョ・ヒョンチョル）とスミンの後輩ゲイのカラム（キム・ドンウク）。ジョンテはホストは金のためと割り切って働く現実派だが、常に客や社会に対して敵意を持っているため、時に暴力的なふるまいを見せるというキャラ。そんなジョンテが、映画後半に果たす役割とは……？ また、カラムはソウルに憧れ、ホストをしながら夢を叶えようとする純朴な青年だが、ある金持ちから気に入られて念願の車をゲットすることに。そんなカラムが、映画後半に果たす役割とは……？

長編映画とするための設定 その1

長編映画とするためには、いくつかの状況設定を「仕込む」必要がある。その第1は、代行運転をさせたスミンを自分の部屋に誘ったジェミンについて、スミンが働く工場の御曹司だったという設定にしたこと。

この会社は次々とリストラを遂行していたが、スミンが自分の父親（イ・スンチョル）が経営している会社の工場労働者だと知ったジェミンが、そのリストラを阻止しようとしたのは当然。しかし、そんな行動はジェミンの自分への個人的な好意の表れだと知ったスミンが、それを率直に受け入れられなかったのは当然。それがスミンの

プライドというものだ。したがって、以降ただひたすら大好きなスミンのために、ストーカーのようにスミンにつきまとい、捜し求めるジェミンと、あくまでそれを拒否するスミンとの間のやりとりがこの映画前半のテーマ。

そんな2人間の確執が深ければ深いほど、そして強ければ強いほど、その確執が解消した時の2人の結びつきは強くなるはず……？

■長編映画とするための設定 その2

社会の最下層でもがきながら生きているスミンに対して、ジェミンは大企業の跡継ぎとして期待され、位置づけられている御曹司。もちろん、それはジェミンには大いなるプレッシャーだが、そこから逃れることができないのも宿命。

そんなジェミンの婚約者であるヒョヌ（キム・ジョンファ）は、今ジェミンの母親（キム・ファヨン）ともうまくつき合い、ジェミンとの結婚によって幸せをつかもうとしているごくまともかつ利口な女性。しかし、結婚を約束した男がゲイらしいと知った女性の気持は……？ 私はそんな気持を知るべくもないが、さすがにゲイを公言したイ・ソン・ヒイル監督、そこらあたりの微妙な気持のスクリーン上での表現はうまいもの。また、ジェミンの両親にしてみれば、ジェミンがゲイだとわかって、その矯正ができないのならば、それをそのまま受け入れたうえで結婚させればオーケー。そういう結論を出せるところが韓国のすごさ。たしかにジェミンの母親が言うように、「いくら愛する男がいても、そこでは子供は生まれない」のに対し、愛がなくともジェミンがヒョヌと結婚し、男女の営みさえ実行すれば、子供が生まれる可能性は大きいわけだ。こんな、長編映画とするための2つの状況設定をしたために、『後悔なんてしない』はシリアスな問題提起作に！

■あなたはどんなラストを期待……？

ジェミンが自分をリストラしようとした会社の御曹司だと知ったスミンが、ジェミ



DVD「後悔なんてしない デラックス版」好評発売中。発売元：ツイン、販売元：ジェネオン エンタテインメント、価格：¥5,040（税込）

ンに反発し、ジェミンを受け入れなかったのは当然。イ=ソン・ヒイル監督はそんな様子を淡々と描いていくが、それがラストまで続くわけではない。また、こんなテーマの映画の必然性として、どこかでスミンとジェミンが結びつくはずだが、さて、そんなシーンはいつ、どんなきっかけから……？

是非それを楽しみにしながら鑑賞してもらいたいが、予測できないのはこの映画の結末。渡辺淳一の原作を映画化した『失樂園』（97年）は大反響を呼んだが、あんな大不倫が社会に容認されるはずはないから、結末がハッピーエンドにならないのは当然。それと同じように、フランスやアメリカならまだしも、日本や韓国ではゲイのイケメン2人が世間からつまはじきされながら幸せに暮らしましたとサ、というエンディングがありえないのは当然。そうすると、1度は愛する者同士が結びつき、ひとときの幸せな時間を過ごすとしても、この2人に待つラストは……？

それがハッピーエンドでないことだけはたしかだが、そうかといって『失樂園』と同じようなラストとは限らない……？ さあ、そんなイ=ソン・ヒイル監督が用意した衝撃の結末はあなた自身の目でしっかりと！

2008(平成20)年6月23日記

ミニコラム

表紙撮影の舞台裏（8）その1



今回の表紙写真撮影風景



左) プロ (中野克彦氏)
右) 素人 (金子事務局次長)

※本文は294頁から。